

【日本農業新聞 2016年4月5日付～4月10日付の紙面から】110回目

<コメント>

TPP承認案を巡る国会での本格審議が始まった。だが、政府・与党側の矛盾が早くも露呈。例えば、政府の影響試算について、野党から「国内対策を織り込まない試算」を求められた森山裕農相は「現実と懸け離れた仮定に基づく」として再試算を拒む。影響があるから対策を打ち出したはず。この国内対策の根拠を自ら否定しているような答弁だ。「保秘」を盾に黒塗り資料を出す一方、西川公也衆院TPP特別委員長が交渉の内幕を明かす著書の出版を予定する。農家の不安解消には、とてもつながらない。

<概要>

■TPP国会審議入り 首相「最善の結果」／決議、試算巡り火ぶた

【4月6日付1面】

TPPの承認案と、農業対策を含む関連法案が5日、衆院本会議で審議入りした。かつてない市場開放を約束する合意内容を「国益にかなう最善の結果」と訴えた安倍晋三首相に対し、民進党など野党は「国会決議違反」と批判。早くも激しい攻防となった。政府・与党は今国会での承認・成立を目指す。結論ありきでなく、検証と議論を尽くすことが不可欠だ。TPPが発効すれば、日本は全農林水産物の82%で関税を最終的に撤廃する。

■日米閣僚協議で政府 資料開示も“黒塗り”に

【4月6日付2面】

政府は5日、日米の閣僚協議の資料開示を求める民進党に対し、一部提示に踏み切った。同日の衆院TPP特別委員会理事懇談会に提出した。ただ、表題と日付を除いてすべて黒塗り。文書そのものの写しではなく、一部加工したものだった。理事懇談会後に開かれた民進党TPP交渉過程説明チーム（玉木雄一郎座長）の会合は、この間の政府対応をめぐる紛糾。情報開示問題は、今後も後を引きそうだ。

■論戦 TPP国会 情報開示で平行線／担当相「保秘」盾に譲らず

【4月6日付3面】

後半国会の焦点となるTPPの承認案と関連法案が5日の衆院本会議で審議入りした。焦点の重要5品目の聖域確保を求めた国会決議との整合性などについては、踏み込んだ答弁はなかった。野党が求める情報開示も、保秘契約があるとして譲らず、議論が深まるかは見通せない。政府の影響試算について、対策なしで再試算するよう野党から求められた森山農相は「現実と懸け離れた仮定に基づく」として再試算をしない考えを改めて表明。

■衆院TPP特別委員会 審議入り 大荒れ

【4月7日付1面】

衆院TPP特別委員会が6日開かれ、TPP承認案と関連法案の提案理由説明が行われた。政府の情報開示の対応を巡って野党が反発し、予定から5時間以上遅れて開会。審議初日から大荒れとなった。7、8日には安倍首相が出席して質疑を行い、本格審議に入るが、

野党は対決姿勢を崩さず、与党が目指す今国会成立は綱渡りの状況。民進党は、引き続き、甘利明・前TPP担当相の出席などを求め、交渉過程を徹底迫及していく構えだ。

■政府 黒塗りも保秘義務違反／民進 あきれ顔

【4月7日付3面】

政府が民進党の要求に応じて部分開示に踏み切った日米閣僚協議に関する文書。表題と日付を除いて全て黒塗りにされ、内容が全く分からないものだったが、政府はこの開示も本来は「保秘義務違反」に当たると説明し、野党からはあきれの声も出ている。文書は全部で約50枚。首相官邸への説明資料として使われたものだという。実際には、ほとんど黒塗りで、分かるのは分量程度だった。

■TPP本格審議開始 交渉過程開示拒む／野党迫及 序盤の争点に

【4月8日付1面】

TPP承認案と関連の本格審議が7日、衆院TPP特別委員会で始まった。民進党が交渉の詳細な情報開示を要求したのに対し、安倍首相は「交渉は妥結した結果が全てだ」「ふつうは過程は公表しない」と述べ、外交上の慣例や各国との守秘義務契約を理由に否定的な姿勢を示した。また最大の焦点である農業分野の合意内容について首相は「(重要品目の聖域確保を求めた)国会決議の趣旨に沿う」などと従来の方針を踏襲した。

■TPP 不安払拭する審議を／全中方針 与党に万全の対策要請

【4月8日付2面】

JA全中はTPPで国会審議の本格化を受け、農家の不安払拭(ふっしょく)へ十分な議論を求めていく。万全な国内対策となるよう、対策を検討する自民党への働き掛けや、政府の2017年度予算に向け各区域段階での取り組みも迫及。全中は、今後の取り組みを7日の理事会で確認した。国会審議では政府の答弁を中心に精査・分析し迅速に組織への周知を図る。将来的に政府が想定する以上の事態が生じた場合、必要な対策を求めていく。

■論戦TPP国会 「保秘」線引きで応酬／米の影響 見解で分かれる

【4月8日付3面】

7日の衆院TPP特別委員会では、民進党が交渉過程に関する情報開示を強く求めたが、政府側は「交渉過程は原則、非公開」と応じず、押し問答が続いた。今後の審議でも秘密の“線引き”が争点になりそうだ。民進党の福島伸亨氏は、米の国別輸入枠による国産米価格への影響に懸念を示した。森山農相は「(輸入米の)数量規模が数万トにとどまる以上、基本的に大きな変化はない」とし国産米価格への影響は小さいと反論した。

■TPP特別委 紛糾／審議正常化は不透明

【4月9日付1面】

衆院TPP特別委員会は8日、安倍首相と関係閣僚が出席して質疑をした。しかし政府の情報開示姿勢や議事運営に民進党が反発し、途中退席。審議が6時間超中断した。与野

党の筆頭理事が断続的に協議したが、調整は難航。西川委員長は、民進、共産の両党が欠席のまま審議再開を強行した。来週以降の審議に影響しかねず、序盤で大荒れに。民進党は「西川委員長の責任問題は免れない」と不信感を強め、週明けに対応を協議する。

■あすから日EU交渉 EPA

【4月10日付1面】

日本と欧州連合（EU）の経済連携協定（EPA）第16回交渉会合が11～15日の日程で、東京都内で開かれる。農業分野では、チーズなど重要品目の関税交渉が焦点。両者の主張の差は大きく、今回の交渉でどの程度進展するか見通しにくい情勢だ。日本はEU側に自動車の関税撤廃を求め、EUは日本側に重要品目でTPPの水準を超える市場開放を求めているもよう。前回3月の交渉で目立った進展はなかった。

以上